

卓話

平成 18 年 5 月 9 日

「 剣 と 功名 」

鷺見愛剣堂 鷺見憲司様



鷺見憲司氏プロフィール

『鷺見愛剣堂』主人
S24 年岐阜生まれ
岐阜市立本荘中学校、早稲田大学卒
財団法人日本美術刀剣保存協会
岐阜県支部長代理等を歴任

本日は、鷺見愛剣堂（岐阜市神田町）の主人である鷺見憲司氏より、「剣と功名」というタイトルで卓話をお聞きした。

冒頭、刀剣についての話の中で、我々が一般的に考えている武器としての認識は間違いで、本来は武士としての誇りや、ステータスの象徴であったこと。それ故、武士



の魂としてその刀のみでなく、その持ち主や、刀工までが周囲の人々から、尊敬を得たことが話された。

その代表的な例として「関の孫六」として、最も評価の高い通称「青木兼元」を拝見させていただくことができた。この刀は、織田信長の天下布武にとっての最大の分岐点であった「姉川の合戦」で、功名一番となった青木家の所持した刀であったが、クラブの会員にとって間近に見ることができ、大いに眼福となった。